

みんなの議会

2022年11月
第91号

ほろしんのも リサイクル!

第3回定例会 2↑↓

- 令和4年度一般会計補正予算
- 上程された主な条例

傍聴席の声・臨時会 3↑↓

一般質問 4~6↑↓



伊藤議員が人口減少について質問したほか、5名の議員が一般質問を行いました。

北方領土ビザなし訪問決議 7↑↓

シリーズ検証 8↑↓

第10弾

- スマート農業の推進
質問者 畑地議員

議会の動き 10~11↑↓

決算特別委員会 12~13↑↓



沼田町議会QRコード

令和4年 第3回 定例会

9月15～16日

令和4年第3回定例会が開催され、町長の一般行政報告および教育長の教育行政報告を受け、6名の議員が8件の一般質問を行いました。

令和3年度の一般会計・特別会計と水道事業会計の決算審査については、決算特別委員会を設置して集中審査をすることとしました。

上程された主な議案

◎産業福祉常任委員会所管 事務調査報告

「地元加工品の開発と販売の促進」について、上野委員長より意見書案の報告がありました。(関連11ページ)

◎条例の改正

- ・職員の見休休業等に関する条例の一部を改正する条例
- ・町職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例
- ・沼田町移住定住体験住宅条例の一部を改正する条例

令和4年度補正予算

〔一般会計〕へ主な内容

総務費

- ・沼田線運行事業者緊急支事業 75万円
- ・深川～沼田間を運行する路線バスに対し、沿線自治体で援助を行うもの。



空知中央バス沼田線

- ・物価・原油高騰対策事業 3673万円
- ・1人1万円の商品券(第7弾)配布と、プレミアムつき商品券発行を行うもの。

民生費

- ・高齢者福祉費100万円
- ・和風園での特別な食事を提供するもの。
- ・介護支援費 89万円
- ・旭寿園となごみでの特別な食事を提供するもの。

衛生費

- ・感染症予防対策費 241万円
- ・新型コロナウイルスワクチン接種態勢確保と、5～12歳の接種予約システム使用料。
- ・沼田厚生クリニック運営費 3479万円
- ・クリニックの運営損失を補填するため。

農林水産業費

- ・経営継承・発展事業補助金 400万円
- ・1経営体あたり100万円の補助を4件分。

- ・恵比島揚水機場施設管理費 6150万円
- ・揚水ポンプ電動機修繕のため。

教育費

- ・スキー場管理費 68万円
- ・新しいスキー場のパンフレット印刷と、圧雪車修繕のため。
- ・海洋センター管理費 241万円
- ・来年のオープンまでに濾過用ポンプを修繕するため。



建設が進む新しいロッジ

教育委員会教育長の 任命について

現教育長である吉田憲司氏の再任に同意しました。

教育委員会委員の 任命について

現委員である青木健治氏の再任に同意しました。

議会の予定

12月15～16日
第4回定例会

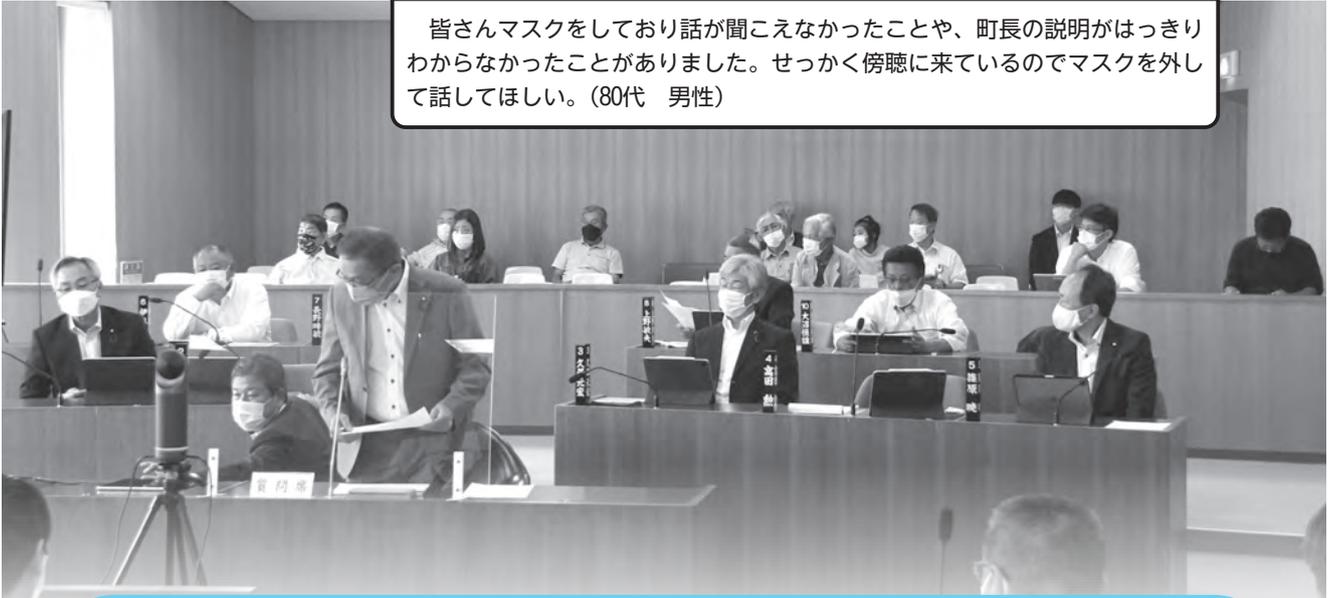
表紙の写真

来年の自然学校開設に向け取り組んでいる「自然体験プロジェクト」が、森の音楽会を開きました。ほろしんの森に音色が響きました。



傍聴席の生の声

皆さんマスクをしており話が聞こえなかったことや、町長の説明がはっきりわからなかったことがありました。せっかく傍聴に来ているのでマスクを外して話してほしい。(80代 男性)



今回の定例議会の傍聴者は、9名でした。

みなさまの傍聴をお待ちしています。

第6回 臨時会 高齢者住宅等周辺整備事業の補正予算を可決

8月17日に招集された第6回臨時会において、令和4年度一般会計補正予算として、高齢者住宅等周辺整備事業の補正予算、2,494万円の増額他の案件が提案され、採決の結果反対2賛成7の賛成多数で可決しました。

◎提案説明（総務財政課長）

建築資材高騰の影響により、高齢者住宅建設に係る費用が当初予算では不足することから、工事請負費を増額補正したい。財源としては、振興基金繰入金を補正額と同額計上する。

◎質疑

問 大沼恒雄議員 高齢者住宅等周辺整備事業の入札延期について、暫定価格の公表をしていない中でその根拠は何か。

答 建設課長 資材高騰による入札の不調や中止の状況があり、設計業者と相談し再度積算を行った。

問 大沼恒雄議員 暫定価格を公表していないのに、1回目の入札の価格はダメで今回なら通るだろうとする根拠があるのか。

答 副町長 道内で建設工事の入札不調が4割も増えたという新聞記事がある。そのような状況なので実施設計業者に実勢価格に合わせた再見積もりをしてもらった。

◎討論

反対意見 大沼恒雄議員 やはり入札の延期が大きな問題で、予定された入札を実施しないで実勢価格が上がったからと補正をするのは正当な理由にならないと考え、補正予算に反対する。

賛成意見 高田勲議員 入札をやめた時点で一度議会にも報告があったわけで、その時にもっと議論をするべきだった。今はその段階ではない。よってこの補正予算に賛成する。



高齢者住宅工事の様子

町長・教育長への一般質問

問 人口減少対策は

答 移住政策を継続しつつ、人材を呼び込む



伊藤 淳
議員

問

沼田町の人口は令和2年2月に3000人を割り、本年8月で2906人となった。移住定住の促進や関係人口拡大を進め一定の成果を上げているが、減少が止まらない。第6次総合計画において社人研の人口推計では、20年後に2000人を下回ると試算されている。JR留萌本線廃止により人口減少に拍車がかかることを危惧している。現在の人口動態をどのように捉えているのか。

2点目に近年の出生数は、3点目に今後の対応や対策をどう考えているのか。



令和3年は、転入107名、転出99名でプラス8名でした。自然減は、出生15名、死亡47名でマイナス32名でした。人口減少は緩やかな状況にあり、これまで取り組んできた子育て支援、移住定住の効果と考えます。

出生数は、令和3年までの5年間の平均値で15・8名です。今年は一桁の出生見込みです。今後の対応は、移住政策を継続しつつ、食料貯蔵流通備蓄基地構想や農業分野における産業クラスター化、沼田版シリコンバレー構想など、産業を集積した新たな雇用の場を創出し、人材を呼び込むための取り組みを開始したいと考えます。オール沼田で産業の創出と人材の育成に全力で取り組み、わが町ならではの資源をフル活用し

て誰もがうらやむような沼田町を作り上げていきます。総合振興計画は様々な観点から再検討する時期なので、整理していきます。



問 札沼線あとに新幹線延伸で活性化を

答 まずは町民の足を守りたい



久保 元宏
議員

問

沼田町とJR北海道の関係を未来に繋げるために質問する。

新幹線の延伸を旭川や北見まで行うように提言してはどうか。札沼線あとは線路が引ける再利用地が残っている。新幹線の貨物化で北見市〜東京間6時間が可能となり、朝もぎ玉ねぎが午前中に東京に到着する。この過程で沼田町は米の最

大産地の中央に位置するメリットを活かし、備蓄米構想によるJRコンテナ基地の整備などをJRに提案してはどうか。

2点目に、町長が準備しているJRとの3年後の付き合い方を具体的に示せ。



まずは、町民の足を守ることを最

優先としながら、町民の意見、圏域、関係機関との調整をした上で、本町の農業分野における産業クラスター化を視野に食料貯蔵流通基地構想の実現に向けて貨物、流通についても検討し

たいと考えています。

2点目の今後のJRとの付き合い方ですが、鉄道は北海道の第一次産業と観光産業に持続的な発展をもたらすものであり、過疎地域において交流、関係人口を創出する上でJR北海道との関係継続は全線廃止後においても不可欠であります。

3年後、そして未来を見据え、専門家やJRに乗り続け隊、次世代を担う若者を中心とした会議体を発足し、国や道、圏域事業者にも意見をいただきながら、利便性の高い公共交通体系と持続可能なまちづくりを考えたいと考えています。



問 化石クラウドファンディングが不調だった理由は

町長答 積極的なPRが欠けていた

教育長答 全国に発信する方法を検討すべきだった



高田 勲
議員

まず町長に、10万円以上の高額寄附者の人数とその総額、35人の寄附者のうち沼田町民とその中の役場関係者の人数、そしてPR不足はなかったのか聞きたい。

次に教育長には期間中の情報発信をどのように行ったのか、沼田町がもつ素晴らしいレプリカ作製技術を動画で発信するべきではなかったのか。

問 予算委員会で、知名度が低い中で2体目のレプリカ作製の財源にクラウドファンディングを使うことは大丈夫かという議論をした。目標金額300万円に対し、支援者35人、120万円という結果は満足度のいく数字ではない。不調だった原因を聞きたい。



クラウドファンディングは沼田町の化石のPRになると考え実施しましたが、目標を達成できなかったことは反省しています。

10万円以上の寄附者は4人で、総額81万円ほど。寄附34口のうち、町民は24口、その中の役場関係は23口です。

公式SNSでの発信と、新聞、テレビ、ラジオなどで紹介されました。結果と

して積極的なPRが欠けていたのかもしれない。

教育長

新聞やテレビで紹介されましたが、公式ホームページやクラウドファンディングのサイト以外でも全国に発信する方法を検討すべき

でした。

目に見える進捗状況が、クラウドファンディングの紹介ページでの公開とタイミングが合わずに実施できなかったことは、反省点であると思います。

問 旧「農業資料館」再利用の考えは

答 資料館としての再利用はしない



上野 敏夫
議員

について見積もってもらったところ、2300万円ほどだった。さらに今年、札幌の設計会社に物価高騰の影響を聞いたが、外壁と屋根であればそんなに変わらないとのことだった。

消火装置の設置については、防火壁を付ければクリアできるようだ。以前、資料館の改修には多額の費用がかかるかと町長から聞いていたが、北海道建設技術センターに相談した上での見積もりだったのか。



今回ご提案されているのは、あく



閉鎖中の旧農業資料館

までも屋上防水と壁の改修、それに塗装の3工事です。施設を使うための改修は含まれていません。

令和2年9月の定例会で、概算の金額として4億円程度かかるかと答弁しました。施設を活用できるようにするにはそれだけかかるというところであり、資料館としての再利用は考えていません。

ただ、将来ずっと今の現場事務所の再利用でいいのかというについては、今後検討します。

なお、本町には専門職員がいまないので北海道建設技術センターには相談していません。

問 安倍元首相の国葬への対応は

答 弔意の強制は検討していない



篠原 暁
議員

事の後援や挨拶を含めた参加、会場を提供したことは無いのか聞きたい。



半旗や弔意を求めたいことを行うのかという点であります。現段階で国や道から通達が来ておらず検討段階にはないし、他の動向を見て決定したいと考えます。

旧統一教会に関する関係団体からの後援あるいは挨拶の依頼などはありません。企業版ふるさと納税それからクラウドファンディングにおいても旧統一教会や関連団体からの寄付についてはありません。

問 国葬に関しては法的な根拠がないという議論があり様々な世論調査でも反対が多いという状況がある。他市の教育委員会が市内の小中学校に半旗を掲揚する要請をしたケースがあった。教育の政治との中立を定める教育基本法に違反していると考える。町として弔意を強要することは無いのか確認したい。また、旧統一教会やその関連団体に対して過去に行

篠原議員のそのほかの質問

問 合葬墓は時代の本流ではないか

答 様々な形を検討したい

問 沼田町における平和への取り組みは

答 平和のまち宣言に見合った活動をした

教育長

小中学校等に弔意を求めることは検討していません。



問 JR廃線後をオール沼田で

答 過疎地域での新交通体制を検討する



長野 時敏
議員

代に繋げる仕組みを構築してはどうか。

代替交通成功事例を、子どもから高齢者・バス会社・JR北海道・町で協議し、道や国へプレゼンし、全市町村のロールモデルとして「日本一の代替交通の実現を目指してはどうか。」

教育長には子ども達の参画について聞きたい。



3年後の未来を見据えて専門家・

JRに乗り続けたい、次世代を担う若者を中心としたオール沼田の会議体を考え、利便性の高い公共交通体系の構築と持続可能なまちづくりに向けた人材とアイデアを結集していきます。

産業創出課にJR留萌本線

教育長

子ども達から意見を出してもらうための検討が必要で、幅広い年代から意見をいただくことは大変重要だと思っております。

過疎地域における新たな交通システムのモデルとなる検討をします。我が町ならではの資源をフルに活用し、廃線後のまちづくりに成功した町として次世代に引き継げるよう進めていきます。

「未来公共交通検討チーム」で、意見集約を図り提案していきます。



列車が通る最後の冬へ
JR恵比島駅(明日萌駅)

北方領土へのビザなし交流と自由訪問の再開を求める決議

沼田町議会はロシア政府が北方領土ビザなし交流と自由訪問の実施を一方的に破棄するとして政令を速やかに解除し北方領土ビザなし渡航が再開されることを強く求めます。

1991年、ソ連側から、日本国民と北方四島在住のソ連人との交流の拡大及び日本国民による北方四島へのパスポート・ビザなしの訪問が提案され、日ロ間の平和条約締結問題が解決されるまでの間、両国の相互理解の増進を図り、北方領土問題の解決に寄与することを目的に主権問題を棚上げする形で1992年から開始されました。

北方四島関係者等は実際に北方領土に行き、北方領土の現状を確認し、北方四島の地域住民との交流では、文化、教育、環境問題などについて幅広い意見交換を行ってきました。

両国ともに、30年間に亘り交流事業に関わってきた人々の思いを水泡に帰すことなく人道的見地から対処することを強く求めます。また、日本政府は関係者と緊密に連携し、厳格かつ適切な対応を講じるよう強く求めます。

上記のとおり決議する。

令和4年9月15日

北海道沼田町議会

【提出先】衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、外務大臣、沖縄及び北方対策担当大臣

シリーズ検証

第10弾



質問する畑地議員

一般質問のその後を追う

議員が定例会ごとに行う一般質問は、その後どうなったのか。シリーズ第10弾は令和元年6月の定例会における畑地議員の一般質問です。

その後の対応

農業推進課より

①当時、令和元年6月時点ではホクレンRTKシステムを町内農地で利用が始まる直前で、スマートフォン等の電波が届かないエリア解消が問題でした。モバイルインフラの進化と要請活動等で、携帯電話のエリアは順次拡大して来ており、RTK-GNSSガイダンス導入をしたトラクター作業等では誤差の少ない作業が可能になりました。尚、機器導入には大きな投資額が必要になるため、補助メニューを拡充してスマート農業の普及を後押しします。

< ICT 機器導入事業の拡充 >

- ・ RTK 年間コスト5000円への補助
- ・ ガイダンス、ドローン等導入経費の補助

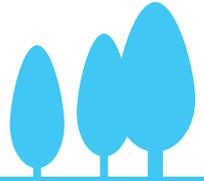
②新農業対策室（その後アグリファームが担当）を設置し、スマート農業研究会を組織化し、多くの実証実験と検証を継続しています。

スマート農業のニーズは着実に増加しており、支援策の充実を図っています!

問 スマート農業を推進していく上での問題点を質す

- ①インフラ整備に関する課題点と今後のスケジュール
 - ・ 携帯の電波エリア
 - ・ 導入コスト低減に向けた施策
- ②受け皿となる組織や担当部署の配置

議会を目指して



中学生と 議会がつながる

11月2日に「子ども議会」が開催されました。事前にアンケートで調査し、まとめたものをタブレットを使用して、議場のモニターで説明を行いました。

議長に川合乃愛さんが就き議事進行を務めました。一般質問を行う議員として6名の生徒が行い、同時に中学校へも生配信にて他の生徒や先生も傍聴しました。



10月25日に議員と共に行ったりりハーサル



緊張した様子の川合乃愛さん

- ① 矢野 椿さん
人口問題について取り上げ、沼田町の各種事業や政策を他町にもPRしてはどうかと質問しました。
- ② 横山広稀さん
不足する施設として、町民体育館の老朽化の改善と農村球場の修復や整備について質問しました。
- ③ 石黒日菜さん
少子高齢化が進行する国内において、沼田町の福祉をどのように進めるか、2025年問題（超高齢化社会）を交えながら質問しました。



タブレットを操作しながら質問する長井菜奈さん

- ④ 長井菜奈さん
基幹産業である農業で、水稲作付けの生産の目安についての影響や農家収入確保の対策について質問しました。
- ⑤ 多田悠朔さん
沼田町の観光スポットや楽しいイベントをPRし、観光客を増やして沼田町を盛り上げてほしいと質問しました。
- ⑥ 松尾泰希さん
中学校の環境整備として、エレベーターの設置や冷暖房器具の整備、武道場の屋根の修繕などを質問しました。



閉会後はみんな笑顔に

町長は、中学生のストレートな質問に戸惑う場面もありましたが、前向きな質問に対し、丁寧な答弁を行っていました。

最後に、多田悠朔さんの挨拶で、将来の町の活性化に協力して町を盛り上げたいと力強く締めくくりました。

昨年引き続き開催した子ども議会も、中学生の視点での考え方など、世代を問わず意見を幅広く聴取することの大切さを強く感じました。

議会改革特別委員会

町民とつながる



議会サポーターとつながる

8月25日に開催された議会改革特別委員会では、講師に法政大学法学部教授の土山希美枝氏と北海道自治体学会議会技術研究会共同代表の西科純氏を招き、主に**議会基本条例**について議論を交わしました。

早稲田大学マニユフェスト研究所が毎年実施している全地方議会を対象にした「議会改革度調査」で、2021年総合ランキングでは全国46位、全道6位となりました（前年全国587位、全道39位）。

町民の皆様のご協力をいただきながら取り組んできた成果の一つではありますが、順位にこだわることなく、今後も町民との情報の共有や参画に努力していきます。引き続きご協力をお願いいたします。



議会サポーターの両氏を交えての意見交換

議会基本条例とは

地方議会の組織及び運営の方針と基本原則を定めた条例とされ、議会のあり方や運営のルールなどを条例の形で住民に示し、議会、議員の活動の指針とするものです。

議会モニター意見箱

沼田町議会モニター 藤村 健一

私は、地域でPTA役員や農業関係の役職、地域おこしの団体ゆきものがかりの代表といったことをしていました。

わりと地方政治に近いところで活動をしてきたと思っていましたが、この議会モニターに誘っていただくまで、議会の傍聴はほとんどなく議員の方々がどのように活動し、議会でどのような発言をしているか全く知りませんでした。興味がなかったという訳ではなく、私が、議会がどのような場であるかという事自体を理解していないことと、なんとなく敷居の高い場所との認識でした。

議会モニターの会議で改めて議会を知り、議員の方々が町民の代弁者となり、一般質問などで意見、確認、監視をしているのだと感じました。また、敷居が高いと思っていましたが、町民との交流で広く意見を聴取しようとするなどの案を練り対応していることも理解しました。その一つの形が議会モニターだと思いました。

議会モニターを通じて、議会への関心は、今まで以上に持てたと思います。これからこのような仲間が増え、少しでも多くの方が議会に興味を持ち、沼田の政治に参画できるような町になればと思います。

決算特別委員会を傍聴する藤村さん





総務民教建設常任委員会 視察報告

テーマ「地球環境対策について」

令和4年8月23～25日 (神奈川県)



7596個まで普及しているコンポスト

神奈川県 葉山町

葉山町は沼田町の人口10倍以上(32800人)、面積16分1(17km²)で人口密度は約20倍である。環境対策を重要課題と捉え、町民を中心にしたゴミの減量化に成果を上げている。

「はやまクリーンプログラム」では、プラスチック製品の3R(リデュース、リユース、リサイクル)について、優先順位を意識して、可能な限り、プラスチック製品を使用しない、作らせない、再生利用の取組を推進している。

ゼロウェイスト「ゴミをゼロにする」を目標に、できるだけ廃棄物を減らそうとする活動に取り組んでいる。分別を増やしたことによって資源化率(ゴミをそのままか、何らかの処理をして、原料や燃料等として使用する率)が上がってきている。

ゴミの減量化では、分別の徹底により、51%の資源化に成功し、今後は生ごみの削減のため新処理場の建設に力を入れている。コンポストの普及率が高い。広報「ごみっぺらし通信」、ゼロカーボン通信」などで住民協力の意識づけをしている。庁舎内にペットボトルの自販機を設置しない、更には、まちのイベントでプラスチック製品排除の徹底を図っている。



有人で6500m潜る「しんかい6500」

国立研究開発法人 海洋研究開発機構

国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)は、海洋科学技術の様々な研究開発を行ってきた。説明を受け、有人潜水調査船「しんかい6500」等の視察を行った。

海流によってゴミが集まる場所がいくつもあり、深海に落ちていったらもう浮かんでこない。特にプラスチックごみは分解されずに漂い、深海に沈みこむ。一部は、細分化してマイクロプラスチックとなり、魚たちが餌と間違えて飲み込

み、生態系を破壊する脅威となっている。

広くて深い海から生物に影響なくマイクロプラスチックを回収するのは困難で、これ以上増やさない事が必要である。

もう一つの対策では海に入ったらすぐに微生物に影響なく分解してくれる材質ができないかと考えている。海洋プラスチック問題はCO₂と同じで、便利さの副作用であるが、プラスチックが無ければ今の生活は成り立たない。

使い捨てのプラスチックを少しでも減らすことが必要で、海洋のプラスチック汚染を止めるには研究機関のアウトリーチ(国民に周知する活動)は欠かせなく、社会との双方向性が重視される。GIGAスクール用の授業メニューもあり、深海からリアルタイムで子ども達に伝えている。

産業福祉常任委員会 所管事務調査報告

「地元加工品の開発と販売の促進」

沼田町は、農業が基幹産業であり、水稲を中心とした作付け体系が主流であるが、他の製品を含めた食資源や水や空気、雪や木材などの自然資源が豊富にあるにもかかわらず、雪中米以外に特別感があり魅力ある商品が少ないように考察する。

そこで本委員会では、富良野市と中札内村において地元産品の認定制度を、福島県国見町において魅力的な地元グルメの開発を、そして宮城県角田市と美里町において備蓄用食品の生産と流通などについて視察を行った。

本委員会は、沼田町でしか食べられないようなグルメ開発と町外で販売する加工食品が安定的に供給できる体制を構築することが、町内の関連事業との相乗効果を生み出し、新たな雇用創出と魅力発信に寄与するものと考え、以下の意見を付し、調査報告とする。

1) 認定制度の活用

消費者に沼田町の産品を分かりやすく伝えるには、地元食材や製造される加工品を町が認定し表示できる取り組みが有効と考える。また、沼田町の自然を利用した商品も同様に認定し、消費喚起に結びつけるシステムが必要である。

更に、雪を利用した食材や加工品、花卉などに対しても雪の認証をすることにより沼田町の独自性と販売促進の効果があると考え。



「メイドインフラノ」認定商品

3) 町内での地元加工品や食材の販売促進

町外では、国道沿線に道の駅があり、食事やお土産、地元食材などを販売し運営している。本町では、個人や団体が点在して販売しており、野菜作りに生きがいを求めている高齢者や新たな販売先を求める生産者は潜在している。多様な加工品や地元の野菜が陳列され、一か所で気軽に買いもの出来る物産館などは地産地消に有益であると考え。

また、通年で利用するスキー場や町内にある施設を活用し、町民参加型の試食会や食材の販売会などを行うことは、広く意見を聴収する機会として有効であると考え。

2) ご当地グルメの開発

本町のグルメ開発は、商店や飲食店、地元の料理愛好家などが連携できるように、町民主導の協議会を設立し、町民のアイデアが実現できる環境づくりに対して、試食品の提供に係る食材の経費などの支援が必要である。



「食の応援団」中札内地鶏のグリル

4) 食と物流の拠点化

食料流通備蓄基地構想に伴い、沼田町を拠点とした食のシリコンバレー化を実現するためには、変化する米の消費の在り方の研究と災害時に安定的に供給できる備蓄体制の構築が不可欠となる。

ライスパック工場は一例であるが、米地帯である沼田町や近隣町村からの集荷により物流コストの低減を示し、構想実現の足掛かりとすべきである。



東北最大の道の駅(福島県国見町)

決算特別委員会

令和4年10月19日～24日

委員長 鵜野 範之
副委員長 伊藤 淳



決算委員会の様子

令和3年度決算 全会一致で認定される

この度召集された決算特別委員会において、令和3年度の決算状況について審査を行い、次頁の意見を付して認定をしました。

総括質問

沼田町のファンを育てる政策は



ふるさと納税全体の中でリピーター率は上がっているが、全体が減っているのが相対的に率が上がっているように見えるだけ。一度結びついた方に手厚いおもてなしの心で接することがリピーターを増やすのではないかと。



沼田町ふるさと納税人気NO.1の雪中米食べ比べセット

北海道沼田町

全国の大学生を救う!



ぬまた「大学生応援プロジェクト」

“キャンパスライス”プロジェクト



コロナ禍で食生活に困窮する大学生を応援するため、ふるさと納税の仕組みを利用して募金を集め、学生に沼田の雪中米を送るこの取組は大成功を収め、全国に沼田町のファンが生まれました。

様々な対策を取ってきただが、結果として数字が伸びなかったのだからまだ足りなかったと言わざるを得ない。



様々な対策を取ってきただが、結果として数字が伸びなかったのだからまだ足りなかったと言わざるを得ない。

キャンパスライスプロジェクトは、大変好評で成功したと言える。沼田町は、困窮している学生に優しい町といえるイメージがファンを増やすことにつながる。この取組をなぜ続けなかったのか。



キャンパスライスプロジェクトは、大変好評で成功したと言える。沼田町は、困窮している学生に優しい町といえるイメージがファンを増やすことにつながる。この取組をなぜ続けなかったのか。

他の形で実施することも考えた。ご意見に配慮して進めたい。



所管課の連携について



自然体験プロジェクトや高穂スキー場、食料備蓄基地構想など各課の連携が必要な事業でうまくいっていなかった。完璧であったとは言えないかもしれないが、担当課を中心に関連する職員が連携してプロジェクトを進めていたと考える。



高齢者住宅の設計一つを見ても、居間が北側にあるというような形は連携がとれていれば事前に解決できたはず。



その点は、住宅の外側との空間の違いから出てきたことなので、連携の問題とは別だということをご理解いただきたい。





答弁をする横山町長

一般会計

◎歳入決算額	54億6246万円
◎歳出決算額	53億5728万円
◎実質収支額	1億0518万円
◎町債残高	36億2589万円
◎基金残高	33億5180万円

高穂スキー場活用の
コンセプトについて

高穂スキー場の事業は、関係人口の増加にとって重要であり、単なる改修ではない。なぜしっかりとしたコンセプトをもたないまま設計をしたのか。



コンセプトがないと言ふことではなかった。スキー場は人材育成や関係人口創出の場であるということは再三述べてきた。



確かに懇談会などでの説明はあったが、設計段階でそれを整理して明文化し、示すべきだった。



明文化はできていなかったが、これまで説明をしてきた中で認知をされていたということは、ご理解いただきたい。

令和3年度 沼田町一般会計等歳入歳出決算認定意見の集約

(1) 事業推進に向けた各課の連携

高穂スキー場やまるごと自然体験プロジェクトなど施設の建設や運営、事業は担当課が中心となり進めています。目的や内容の多様化を、各課で横断した結びつけにより、連携と業務の分担を十分に検討の上、事業推進に向けたさらなる展開を望みます。



ほろしんの森で乗馬体験

令和3年度 沼田町水道事業会計歳入歳出決算認定意見の集約

令和3年度は、有収率が前年度より1.4ポイント下回り70.0%となっています。国道275号線西町配水管の漏水修繕により改善が図られる見込みですが、今後も施設の改修を計画的に進めることにより、有収率の向上と将来負担の平準化を望みます。



西町配水管工事の状況

退任議員との交流会

10月17日には退任議員会の総会と懇親会が行われ、懇親会では、現職議員も招いていただき親交を深めました。

毎年恒例の退任議員とのパークゴルフ大会は雨天により順延となりましたが、10月31日に開催されました。団体の部優勝 退任議員会 個人の部優勝 山木一男さん



町3役を交えての記念撮影

議会への視察

産業福祉常任委員会が所管事務調査として赴いた福島県国見町の議会が、10月14日に8名の議員で来町しました。沼田町議会の議会改革が注目され、昨年導入したタブレットの活用方法や議会モニター制度の運用などを目的に視察に訪れました。



福島県国見町から訪れた議会の皆様

みんなの広場

町民みんなが 元気であるように



ラジオ体操指導者
植田 秀雄

私は小学生の頃、身体が小さかったため、何か鍛えることをやりたいと思い柔道を始めました。その後成人するまで柔道を続けていたので、自然と子ども達を指導する立場になっていきました。

ラジオ体操を指導するようになったのは、最初は子ども会の取組からでした。夏休みに子どもたちを集めてラジオ体操をするのですが、体操がよくわかっていない子どもがいたので前に出て見本を示すようになったのがきっかけです。

その後、町のラジオ体操会でも指導をするようになりました。体操をすると自分でも体調がすごく良くなることを実感しています。

ラジオ体操を指導するためには自分も体力維持に努めています。毎朝妻と一緒にウォーキングをしていますが、以前は9000歩が目標だったものの、最近はずいぶん5000歩くらいになっています。

来年春からまたラジオ体操が再開します。多くの町民に参加してもらい、皆さん健康になることを実感してほしいと思っています。



今年ラジオ体操に参加した皆さんと一緒に

あとがき

今年のお米の収穫も無事に終わりました。お米の評価の一つであるタンパク値も低く、今年のお米は平年にも増してとてもおいしいと評価を受けているようです。

近年は台風による影響で、全国各地で災害の発生が多発していますが、幸いにも本町では大きな被害もなく穏やかに生活することが出来ました。

沼田町は災害も少なくいいところだと感じています。災害はいつ起こるかわかりません。備えは万全に行い、安心して暮らせる生活を心掛けましょう。

広報特別委員

長野時敏 篠原 暁
上野敏夫 畑地 誉
伊藤 淳